

## 平成28年度第1回（仮称）小牧市農業公園検討委員会会議録

- 1 開催日時 平成28年5月26日（木）  
午後1時15分～午後3時00分 現地視察  
午後3時00分～午後3時15分 休憩  
午後3時15分～午後4時40分 会議
- 2 開催場所 小牧市役所 東庁舎2階 会議室2-2及び  
（仮称）小牧市農業公園用地
- 3 出席者  
【委員】  
長島委員（委員長） 今枝委員（副委員長） 長田委員  
丹羽委員 永井委員 野村委員 橋本委員 馬場委員  
神戸委員  
【事務局】  
小牧市役所地域活性化営業部 丹羽次長  
農政課 余語課長 余語係長 木村主事
- 4 欠席者  
堀委員
- 5 配布資料  
・次第  
・検討委員会構成一覧  
・（仮称）小牧市農業公園整備事業（H.19～23）における計画概要について  
・他市の状況について  
・（仮称）小牧市農業公園予定地地図
- 6 傍聴者  
なし
- 7 会議内容  
1.（仮称）農業公園予定地視察  
2.（仮称）農業公園の構想について  
3. 他市の状況について

**【司 会】**

本日はお忙しい中、平成28年第1回（仮称）小牧市農業公園検討委員会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

本日の検討委員会は、最初に（仮称）小牧市農業公園の予定地である現地を、委員の皆さんとともに視察に行きまして、その後、市役所に戻りましてから、（仮称）農業公園の構想、他市の状況などを議題に進める予定であります。

それでは、車の方に移動しますので、貴重品等、お忘れのないよう、よろしく申し上げます。

—（仮称）農業公園予定地視察—

**【司 会】**

大変お疲れ様でした。

それでは、検討委員会を進めさせていただきます。

最初に、神戸地域活性化営業部長から、挨拶を申し上げます。

**【神戸部長】**

本日は、検討委員会に先立ち、まずもって、（仮称）小牧市農業公園をご視察いただき、誠にありがとうございました。

現地の現在の状況や地形、周辺の環境を実際に見て歩いていただくことにより、委員の方々に、様々なイメージが膨らんだものと思います。

本日は、先に送付させていただきました資料を基に、（仮称）小牧市農業公園のこれまでの基本構想などの考え方のお話や、農業をテーマパークとして、昨今、テレビなどにも取り上げられています他市の農業関連施設などの紹介をさせていただき予定であります。

委員の方々にとりましては、ぜひ、今後の検討委員会の審議を進めていく上での指針の一つとしていただければと考えます。

本日はよろしく申し上げます。

**【司 会】**

ありがとうございました。

続きまして、長島委員長より挨拶をお願いします。

**【委員長】**

今日は平成28年第1回の検討委員会ということで、現地を見て委員の方々とお話をさせていただきました。私からは、食育に関することから意見を述べ

ように思っています。農業公園については、本日の視察の前に送付されました基本構想等を参考に、それを用いてどこに到達点をもっていくのかを検討していくものと思っています。委員のみなさんの意見をなるべく生かして話し合いを進めていきたいと思っていますので、ご協力をお願いします。

#### 【司 会】

ありがとうございます。

議事に入る前に、当検討委員会は、(仮称)小牧市農業公園検討委員会設置要綱第7条の規定により公開となっております。

本日の傍聴者は0名でしたので報告します。

#### 【委員長】

それでは、議題にそって、進めさせていただきます。

議題(1)(仮称)農業公園の構想について、事務局から説明をお願いします。

#### 【事務局】

前回の平成28年3月24日に行われました検討委員を少し振り返りたいと思います。まず、農業公園の経過についてご説明させていただきました。

平成19年度には「食育と環境」を基本理念として、基本構想を策定しました。平成20年度には、基本構想に基づき、施設整備や管理運営方針についての基本計画を策定しました。

平成21年度から22年度の2ヵ年にかけて、具体的施設整備に向けての基本設計を行いました。総事業費が膨らみ、採算が危ういなどのご意見をいただき、平成25年3月に、農業公園事業は凍結となりました。

その後、施設整備が事業費を押し上げるものとなっていたことなどから、事業区域の見直しを行い、市道岳造1号線東側用地約2haについては、事業用地から除外しました。また、鷹ヶ池エリア(市道岳造1号線北側用地)についても、従来からの機能である農業用ため池としていくものとし、事業区域から除外しました。

これにより、市道岳造1号線西側用地約6haを新たに(仮称)小牧市農業公園の予定地として展開していくものとし、委員の皆様方に検討をお願いするものであります。

以上が前回会議の主な概要説明になります

続きまして、桃色の基本計画の32ページをご覧ください。基本方針では、先ほどから申し上げておりますが、「食育」と「環境」を柱とするとともに、4

つのキーワードを設定し取り組みを行うこととしました。それは、「農業」「体験」「モノづくり」「地域交流」であります。49ページをご覧ください。農業公園の周辺地域との連携と機能分担においては、周辺施設である市民四季の森、エコハウス・小牧、JA尾張中央グリーンセンター桃花台店、小牧市温水プールとは機能分担し、足りないものを補い、重複するものは活性化させながら、地域に根付くもの、また、愛される施設を目指すものであります。7ページをご覧ください。公園の土地利用計画については、区域を小さく「食農学習の場」と「地域交流の場」の二つに分けました。食農学習の場は「農園学習エリア」「森の学習エリア」「水辺の学習エリア」を配置しました。

緑色の基本設計の15ページ、18ページをご覧ください。地域交流ゾーンでは、来園者の管理を行うインフォメーション、生産者と消費者の交流の場として地域の農産物などの販売施設となるファーマーズマーケットや地域の食材を生かしたレストランなどを配置しました。農園学習ゾーンでは、メインとなる地域の農畜産物を加工した公園オリジナル商品の開発製造の場と、モノづくりの体験学習の場としての体験棟を配置しました。また、農業にまつわるイベント会場や命の役割を理解し、家畜と触れ合う場としての家畜小屋、施設内の資源循環を伝えるための堆肥小屋などを配置しました。森の学習ゾーンでは、雑木林の中を自由に移動できる散策路の整備、ハンモックやツリーハウスなど自然に親しむことができるように整備計画をしました。最後に、水辺の学習ゾーンでは、地域の農業水源としての学習機能の場、及び水生生物や水辺の生き物とふれあう場などの整備計画をしました。

なお、農園学習ゾーン、森の学習ゾーンは有料区域とし、地域交流ゾーン、水辺の学習ゾーンは無料区域と設定しました。

本日は現地を見ていただきありがとうございました。やはり、現地を見ないと分からない部分もありますので、実際に現地を見ていろんな発想が出たのではないかと思いますので、皆様方の意見をお願いしたいと思います。

#### 【委員長】

ありがとうございました。

ただいまの事務局の説明について、何か質問はありますか。

#### 【委員】

(仮称)小牧市農業公園整備基本設計のP15に、地域交流ゾーンや農園学習ゾーン、森の学習ゾーン、水辺の学習ゾーンとあり、無料の設定のものと有料の設定のものがありますが、有料の設定のものは具体的にはどのようなものですか。

### 【事務局】

農園学習ゾーンと森の学習ゾーンを有料としており、当初の基本計画では、こども達やファミリー層を中心に対象としており、その中で例えば、アイスクリームの職場体験をしたいと考えておりました。それは、アイスクリームの原料となる牛乳の乳絞りから、加工されアイスクリームになるという過程を体験してもらうものです。その中で、原材料や資材等を加味しながら、当初は入園料を含めて2,000円程度と考えておりましたが、パブリックコメントで、値段が高いのでは、幅広く皆さんが体験できるようにした方がいいのではという意見を受けて、概ね500円程度でどうかという考え方になりました。最初に入園料を500円払ってもらって、それ以外に体験型のものを行うなら追加で料金を払うというものによって変わっております。

### 【委員】

農業公園の構想についてというところですが、以前の構想はこうでしたという説明がありました。森の学習ゾーンと農園学習ゾーンの部分を使って、事務局の中で何か構想を立てているのですか。それともこの検討委員会ですべて決めていくのですか。例えば有料ゾーンは今回なしというように基本ラインとして…。

### 【事務局】

これまでの、基本構想から基本設計でまとめた成果について、すべてゼロベースにするのではなく、今回ご覧いただいた（仮称）農業公園予定地の中で、活用できるものがあれば事業として導入していければと思います。そのため、現地をご覧いただいた結果を、委員の皆さんから意見をいただければと考えているところであります。

### 【委員】

先に送付していただきました、（仮称）小牧市農業公園整備事業（H. 19～23）における計画概要にある、農業公園整備の方向性に関する意見については後ほど発言すればよろしいですか、それとも、今発言してもよろしいですか。

### 【事務局】

本日現場を見た中で、思いついたことがあれば発言していただければと思います。

## 【委員】

今日現場を見させていただいて、非常に多様性のある環境であると実感できました。現場には竹林や雑木林、池があり、とても環境が整っていると感じました。

先に送付していただいた資料の中に、農業公園整備の方向性ということで基本理念を挙げており、「食育と環境」を伝える場とありますが、すべて食育に関するもので環境について触れられていないと思いました。2つの柱として重きを置くなら、環境に対する理念の文章を入れていただきたいと思います。また、4つのキーワードとして「農業」、「体験」、「モノづくり」、「地域交流」とありますが、環境に関係したキーワードが入っていないので、入れていただきたいと思います。

次に、環境に配慮した施設整備とありますが、施設整備を行うことは環境に悪影響を与える感じがあるので、環境に配慮した施設整備とはどういうものか具体的にしていきたいと思います。

また、「土地利用方針」や「農業公園のしかけとしくみ」にも、環境や生態系、多様性といった言葉を入れていただきたいと思います。そのような言葉が入れば、この農業公園は環境の為につくった公園であることが分かるのですが、そのような言葉が見当たらなかったのもので、環境に関する言葉を入れていただきたいと思います。

また、視察のときに地図を頂いたのですが、ずっとこの地図を使って会議を進めるのでしょうか。先ほど提示された、(仮称)小牧市農業公園整備基本設計のP18の施設全体配置図のようなもので、売却した市道岳造1号線東側用地と市道岳造1号線北側用地(鷹ヶ池)を除いて、市道岳造1号線西側用地だけをどのようにするかを示した、平成28年度版の地図を作成していただきたいです。

## 【事務局】

事前に送付した資料については、これまでの基本構想、基本計画、基本設計を取りまとめたもので、今後の整備の方向性については、この場で新たな方向性を出していただくということになりますので、今おっしゃるようなことは今後、盛り込んでいきたいと考えております。この当時の環境についてはどのようなものかといいますと、施設に関しては風力発電を導入しようという計画がありました。また、畑等で取れる余分な枝葉を堆肥化していくということから、環境というものが抽出されたと考えます。そういったものをピックアップしていき、ご指摘のような文面にしていきたいと思います。

また、(仮称)小牧市農業公園整備基本設計のP18の施設全体配置図について、市道岳造1号線東側用地や市道岳造1号線北側用地(鷹ヶ池)については、余分な絵になってしまうのですが、2年かけて(仮称)農業公園予定地約6ha分の絵を作っていこうというのが検討委員会の趣旨であります。今回のものについては、あくまでも参考というものでご覧いただきたく、導入できるものについては導入していきたいと思えます。

#### 【委員長】

(仮称)小牧市農業公園整備基本設計のP18の施設全体配置図にあるような道は、現在ありますか。

#### 【事務局】

自然林と竹林の間に旧来の赤道があります。そのあたりが若干絵になっていると思えます。それ以外のところは表示されていません。今後は、既にある道を利用していくことで費用を抑えられるのではと思えます。

#### 【委員】

今までの基本構想をすべて白紙にするのではなく、最大限利用できるものは利用し、市民から見て良かったというもの、歓迎されるものをつくっていく必要があると思えます。また、近くにある四季の森との連携が取られるものにする必要があると思えます。

#### 【委員】

今までの計画をすべて白紙にするのではなく、少なくとも、地図を最新のものに差し替えを行った方がよいと思えます。

#### 【委員】

農業公園用地約6haで事業を進めるとなると、一番大きいものは駐車場になるかと思えます。立地条件から考えると、車で来る人が多いと考えられるので、極端に行けば、用地の3分の1ぐらいが駐車場と管理塔になり、他につくるものがなくなるのではないかと思えます。そこで例えば、桃花台センターからシャトルバスを出すようにして、うまくやれば駐車場を少なくすることができるかもしれませんが。

また、農業公園から近い場所に池之内市民菜園があり、耕作放棄地も周辺にあるので、それらをドッキングさせ、農業公園用地約6haの用地をメインにし、その他をサブ会場とするのも方法だと思えます。最低でも100台以上の車を

置けないと、駐車場としての機能は少ないのではないのでしょうか。そこをどのように考えるかが大切だと思います。

**【委員長】**

ありがとうございます。

1つ確認ですが、今日はこのような議論をするということによろしいでしょうか。

**【事務局】**

桃花台センターからバスを出せば駐車場が少なく済むことや、駐車場は100台以上必要ではないか、農業公園用地約6ha以外の区域も必要ではないかという議論については以前からもしてきました。まずこの農業公園の約6ha用地をどういった方向でやるのか、各論を含めながら総論についても、どういった形の方で市民の皆さんに楽しんでもらうか、例えば子どもたちに体験してもらうのか子ども以外の人にも体験してもらうのか、総合的に農業公園がどこへ進んでいけば良いかを審議をいただきたいと思います。

**【委員】**

農業公園の計画にはいろんな変遷があり、当初の目的というのは、国の方向性になって小牧市も同じようにと理解しておりますが、そこから変遷があり、一時は環境問題ということで、環境基本計画を小牧市でも策定し、環境に対する関心が高くなりました。そして、市民団体も環境に関する方向性を持って活動を行うようになりました。それに遅れて農業公園の計画が出てきました。土地としては、約6haで何とかしなければなりません、(仮称)農業公園用地で何をすべきか、現時点では見えていない状態だと思います。農業公園をつくることばかり考えるのではなく、何が必要なかをきちんと確認して、必要ならば市民に問いかけて前に進まない、農業公園は本当に必要なのかという話になります。農業公園が本当に必要か、食育と環境をここでやる必要があるのかを考える必要があると思います。

**【委員】**

約6haを利用して、市として誰のためにどのようにするか、要はターゲットをどうするか。例えば、食育の観点で、子どもたちをターゲットにして体験農園を行うというように。本当にここでどうするか、各論もありますが、基本方針をどうするか議論することが大切ではないかと思います。



**【委員長】**

それぞれの委員が思う農業公園や重点、この部分に力を入れるべきというところが違っているかと思いますが、この検討委員会の流れや議論をどのくらいのスパンでやるのか、到達点はどうするか早めに決めた方がよいのか、今日は持ち帰っていただくのか、どちらでしょうか。

**【事務局】**

(仮称)小牧市農業公園整備事業(H.19~23)における計画概要と、視察した(仮称)農業公園用地の状況が、かけ離れているのではないかとのことですが、実際に現地をご覧いただき次につなげられればと思い、現地の視察を企画したものです。全体の施設計画は、農業振興に資するという意味合いで、必要なものがあればご提案いただければと思います。今後の予定としては、参考になる他市の事例をご覧いただきまして、参考になれば小牧にも取り入れることも含めてご議論いただきたいと思います。

今年については、第3次食育推進計画改定のため、秋にはアンケート調査を行い、そこで農業公園についても触れたいと考えています。また、その結果を委員の皆さんにお渡ししたいと思います。今日を含めて年間で4回の会議を行いたいと思い、平成29年度には新しい施設全体配置図に相当するものをつくりたいと思います。今日のところについては、それぞれ思いがあったかと思いますが、お持ち帰りいただきましてまとめていただければと思います。

**【委員長】**

次回にもう一度議論をするということですか。

**【事務局】**

参考事例を見ていただきながらと考えています。

**【委員長】**

そうしましたら、次の議題の「(2)他市の状況について」に進めさせていただきます。事務局から説明をお願いします。

**【事務局】**

それでは、本日お配りした資料の5ページ目をご覧ください。

他市の状況としまして、県内の他市が事業主体として取り組んでいる2つの施設を紹介したいと思いますのでよろしくをお願いします。

まず、名古屋市が事業主体となって、名古屋市農業センター「dela(でら)

ふぁーむ」として、昭和40年4月1日からこの施設があります。6ページと7ページに施設のホームページを掲載させていただいております。名前自体は最近この愛称ということで決まりました。名古屋市は、この施設を、農業振興を図る施設として考えており、年間60万人が来場しているとのこと。面積については8.534haで、小牧市が考えている農業公園の約1.4倍の広さとなっております。施設の内容については、牛や羊の放牧場や名古屋コーチンの飼育の場、鶏の展示されている鶏舎、鶏の孵化の展示施設があるように、動物に係るものがあります。また、市民菜園、貸し農園ができる場所もあり、キッチンガーデンなどの花や野菜の栽培、農業センターで搾った牛乳やアイスの販売を現地で行っております。入場料は無料ですが、体験教室は内容により有料のものがあるとのこと。

続きまして、5ページ目の下半分と8ページと9ページ目に掲載している、碧南市が事業主体となっている碧南市農業活性化センター「あおいパーク」を紹介させていただきます。

この施設は、農業と食、健康の3つをテーマとして、農業と消費者を結ぶ体験型交流施設で、年間101万人が来場しております。面積は約3.6haで、現場では、たまねぎやにんじんなどをもぎ取るもぎとり体験や、新鮮野菜を販売している産直市が特に来場者が多いとのこと。その他に、園芸講座、ガーデニング、ソーセージなどの料理などの教室や、観賞用の温室、ハーブのお風呂があるのが施設の特徴です。こちらについても、入場は無料ですが、体験農園や産直市での買い物、レストランやお風呂といった有料のものもあります。

以上、名古屋市と碧南市がそれぞれ事業主体になって、実際に農業が関連して既に進められている施設を紹介させていただきましたので、参考にさせていただければと思います。

#### 【委員長】

ありがとうございました。

ただいまの事務局の説明について、何か質問はありますか。

#### 【委員】

現在の6haの用地で、農業公園をつくらないことも考えるのでしょうか。そこをはっきりした方がよいと思います。

図面については、市道岳造1号線東側用地や市道岳造1号線北側用地（鷹ヶ池）を除いたものを、叩き台でもよいので作成していただきたいです。

農業公園の方向は、テーマパークとして進めるのか、食育で進めるのか、どういう形で進めるのかよく分からないので、近くの場所でよいので、できれば

参考になるものを視察したいと思います。

**【事務局】**

叩き台という意味合いで、ある程度の面積配置を一度検討したものがありますので、次回の検討会で提示ができればと思います。

農業公園をつくらないことも検討するののかということですが、私どもとしては農業に資するものを考えております。理由としては、市内にこれだけまとまった農地はなかなかなく、農業の後継者不足解消のために新たな後継者を発掘するという意味から、かつて農業に使われていたこの農業公園用地を活用したいと考えております。

碧南市のあおいパークは、もともとは碧南市が主体となっていました。現在では、年間来場者数は101万人で、JAあいち中央が主体となって産直部会をつくり、体験事業やハウスを運営しております。このように、新たな雇用の場を生じており、参考になるのではないかと思います。

一方、名古屋のdela（でら）ふぁーむは、まったく参考にならないという訳ではありませんが、家畜に関して地元の理解が得られないので取り除きたいと考えております。そのため、碧南市が参考になると考えております。

**【委員】**

碧南市と名古屋市の両方を見た方がよいと思います。百見は一見に如かずといますし、いろんな形を見て参考にしていかないと、方向性が定まらないと思います。

**【事務局】**

一度検討し、次回に視察できればと思います。

**【委員】**

農業公園をつくるのなら、建屋を小さくしてもよいのではないのでしょうか。名古屋市のdela（でら）ふぁーむは、いろんなものを点在させているので、ここを訪れる人はあちらこちらに歩くことになります。農業をやる人は、あちらこちらに歩きたい人が多いので、名古屋市のdela（でら）ふぁーむが参考になると思います。

**【委員長】**

小牧の農業公園をどうするか決めるためにも、見学会を行うということによるしいでしょうか。

**【事務局】**

先進施設を見て新しい考えも出てくるかと思imasので、見学会を行う方向でいきたいと思imas。

**【委員長】**

食育のアンケートに併せて、農業公園のアンケートを行うとのことですが、アンケートの内容をどうするかというのは、いつ頃に話すのですか。

**【事務局】**

第3次食育推進計画改定業務については、業者に発注して行う予定で、7月頃に業者が決定する予定です。その後、業者を含めてアンケートの内容を協議したいと思imasので、10月頃の時点でご案内させていただきまして、ご提示した内容で議論していただきたいと思imas。また、視察会については日程調整し、事前に施設の事業費等の詳しい内容についての資料を作成したいと思imas。

**【委員】**

どうしても施設整備が根本であると考えていました。もう一度基本に立ち返る必要があると思imas。

**【委員】**

(仮称) 農業公園用地を見ればイメージが湧くのではないかとと思imasましたが、私の中ではどちらかというあまりイメージを湧くことができませんでした。委員の中には、こんなのがいいなと思imas方も見えると思imasし、それを少しずつ意見として出していくことがこの検討委員会だと思imasが、今回の段階では、一度持ち帰っていいいただいて、前回までの基本設計を見ていただいて、引き継いでできるものがあるかどうか考える必要があるかと思imas。総論各論という話になっていますが、各論の部分を入れつつ、最終目的として、どういう人をターゲットにしてどういう施設にしたいのかを考えていくと思imasので、見学会がいつ頃になるかわかりませんが、それを行った後でもう一度議論をするということによろしいでしょうか。

**【事務局】**

視察の時期については、7～8月に考えております。日程が決まり次第連絡させていただきます。

**【委員】**

あおいパークの周辺は平坦で、農地としては恵まれている場所です。一方で小牧市の（仮称）農業公園予定地は高低差があり、住宅が隣接しています。そのため、家畜は無理だと思います。

**【委員】**

（仮称）農業公園予定地でこの施設をつくるとはっきり決まっているのなら、先進施設を視察すればよいと思いますが、今日現地を見たところ、私が感じたところでは、環境を生かして環境を維持して栗林や竹林というところで生産物をつくる、きのこの菌打ちをするというのも食べ物につながる訳ですから、あるものを維持しながらあるものを生かすというのが、一番、農業公園では必要ではないかと思います。

**【委員】**

できるところからというか、あるものを生かすということも大切だと思います。先進施設を既にご覧になった方はイメージが湧いていると思いますが、私自身は先進施設を見てみたいと思います。

**【委員】**

碧南市は、平地が主体で、地中にできる作物に向いており、小牧とは状況が違います。農業公園についてはあるものを活用する、つまり、現存する立派な木を残して駐車場と管理塔をつくるというようにして、その場所に向いた構想をつくる必要があると思います。（仮称）農業公園用地は地中にできる作物には適さない土地で、イモはできるかもしれませんが、大根等の野菜はできない場所です。

**【事務局】**

先進施設の視察は参考にはならないのではないかとのことですが、確かに、あおいパークのある碧南市は平坦な地形で、小牧市とは地形が異なっておりますが、もぎ取り体験や市民菜園、産直部会など、独自に事業を立ち上げておりますので、そういう事業を参考にさせていただきたいと思います。地形だけではないということでもあります。

**【委員】**

あるものを真似するのではなく、〇〇より大きい、〇〇よりこじんまりした

方が良いといった、基準となるものが必要だと思います。小牧市と合わないのなら、なおさらそのような施設も見ておいた方がよいと思います。できれば1日に2つの施設を視察できないでしょうか。今、把握されているポイントや、事務局としての着眼点（この施設はこの部分がよいといったもの）をきちんと整理していただいて、効率的に2箇所、視察できないかと思います。

**【事務局】**

出発時間を少し早くするなど、工夫をして1日に2箇所視察するように調整していきたいと思います。

**【委員長】**

他によろしいでしょうか。

本日の議題については以上です。

**【事務局】**

本日は、現地への視察に足を運んでいただき、また、活発なご議論をいただくなど、長時間にわたり、誠にありがとうございました。これをもちまして、平成28年第1回（仮称）小牧市農業公園検討委員会を終了します。